昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年11月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第11号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62
11月号

MONTHLY かもつ

平成24年度 関東甲信越支部連絡協議会開催

雑貨輸送の一部を12ftコンテナへシフト
西濃通運株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 平成24年度 関東甲信越支部連絡協議会開催
2 鉄道フェスティバルin東北に出展　東北支部
4 平成24年度 新潟市環境フェアに出展しました
新潟支部
6 本部委員会の審議内容
8 鉄道フェスティバルに出展　東北支部福島県部会
9 エコテクノ2012に出展　九州支部
平成24年度 名古屋支部岐阜・西濃地区部会
利用促進会議開催　名古屋支部
10 北九州地区利用促進会議開催
福岡・佐賀地区利用促進会議開催
長崎地区利用促進会議開催
11 会員企業紹介　花王株式会社 和歌山工場

12 FREIGHT EYE

14 お国自慢　たっぷりと快感…四国
15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト
西濃通運株式会社
20 貨物駅の仕事ガイド
鉄道以外の手段で代行輸送する
名古屋貨物ターミナル駅
22 SPOTLIGHT
新型の勾配後押機関車EF210-301号機
24 トピックス
表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

平成24年度
関東甲信越支部連絡協議会開催
（東京スカイツリー見学）

●日時：平成24年10月10日［水］　●場所：東武ホテルレバント東京

鈴木社長による講演会

日本貨物鉄道株式会社
福島支社長

公益社団法人 鉄道貨物協会
米本理事長

東武タワースカイツリー株式会社
鈴木社長

国土交通省関東運輸局
内波局長

東京支部では、10月10日（水）幹事支部として、「関東甲信越支部連絡協議会（新潟・長野・高崎・宇都宮・水戸・千葉・東京支部参加）」を東武ホテルレバント東京において、参加者114名で開催しました。

今回は、本年5月にオープンし、今最も話題を呼んでいる東京スカイツリー（634m）の見学を目玉に計画しました。参加者の殆どの方が初めての見学という良い機会でした。当日は天候にも恵まれ、第一展望台（350m）と第二展望台（450m）からの眺望を満喫していただきました。

見学の後、同ホテルにて支部連絡協議会の会議を開催し、冒頭来賓者のJR貨物関東支社福島支社長様からのご挨拶を頂き、次に当協会本部 米本理事長から挨拶があり、会議は進行しました。続いて、東武タワースカイツリー株式会社 鈴木社長様から「東京スカイツリーの誕生 ー地域とともにー」と題してのご講演を頂き、その後、国土交通省関東運輸局 内波局長様からのご挨拶、東京支部長の日本通運株式会社 川合会長の乾杯の音頭で懇親会を始め、出席者相互の交流を深める有意義な一日とすることができました。関係者の皆様に対し御礼申し上げます。

スカイツリーの眺望を満喫…全員での記念撮影

大賑わいの鉄道貨物協会のブース･エコレールマークのパズルに挑戦

各社特色を生かしたブースに協会も参加

鉄道フェスティバルin東北に出展

東北支部

- 日時：平成24年9月30日［日］
- 場所：仙台貨物ターミナル駅

9月30日（日）晴天のなか、仙台貨物ターミナル駅において、東北地区「鉄道の日」実行委員会主催の「鉄道フェスティバルin東北（同時開催:JR貨物ふれあいin東北）」が開催され、東北支部も本部の協力を得て出展しました。当該イベントには当支部の他、JR貨物･JR貨物グループ各社･JR東日本･鉄道運輸機構･東北地区各鉄道会社ら26社･団体が各地域･各社の特色を生かしたブースで出展しました。当支部ブースには、エコレールマーク認定商品展示、エコレールマークジグソーパズルコーナーを設け、本部から駆け付けた「エコレールマークちゃん」との写真撮影等を行いました。鉄道貨物協会としての参加は今回で三度目ですが、当該イベントには過去最高の1万7千人が来場、当支部ブースもご家族連れ等を中心に過去一番の賑わいとなりました。

また、支部設立記念協賛事業として取組んできた「ミニEH500（金太郎）」が当該イベントに合わせてデビューということで、リアルでパワフルなミニEH500が来場者の目をくぎ付けにするとともに、乗車を待つ長い列が出来ました。

来場者からは、「『エコレールマーク』とは何？」や「鉄道貨物輸送のメリットについて教えて」と言った質問もあり、まさに鉄道貨物輸送の認知度向上に貢献することのできた一日でした。

ご家族連れで賑わったイベント会場でした

開会式のテープカット

昨年を上回るたくさんの入場者で会場は賑やかでした

大人気のエコレールマークちゃん

展示されたエコレールマーク認定商品

協賛のミニEH500デビューに試乗のため長蛇の列

中央ステージ付近の状態（フェア中心部より出展ブース方向）

平成24年度 新潟市環境フェアに出展しました

新潟支部

● 日時：平成24年9月30日［日］
● 場所：新潟市万代シティ通り

9月30日（日曜日）に新潟市万代シティ通りにおいて「平成24年度新潟市環境フェア」が開催されました。このイベントは新潟市が主催し、環境保全に対するさまざまな、取り組みを広く市民に知ってもらうことを目的に毎年開催されています。今年は「～見直そう!私たちのライフスタイル～」がテーマであり、会場となる「万代シティ」は新潟市の中心部に位置し、新潟と周辺の市町村を結ぶバスターミナルとブランドショップなどの高級品を扱う店舗から、イオンなどの食料生活品まで取り揃えたお店が入る複合商業施設であり、幅広い年齢層が訪れる場所です。本年は天候にも恵まれ、2万8千人の多くの来場者を迎える盛大なイベントとなりました。

新潟支部では「エコレールマーク」を広く知っていただくため、ブース内に「エコレールマークちゃん」のジグソーパズルを用意し、立ち寄られた方に組み立てていただき、関心を持っていただくと共に、エコレールマークちゃん本人からもPR活動を行ってもらいました。また、Nゲージを動かし、貨物列車をイメージしていただくと共に実物のコンテナも展示し訪れた皆様に直接見ていただきました。

さらに、本年はエコレールマークを積極的に採用されている「株式会社ブルボン」様からご協力をいただき、エコレールマーク認定商品やエコレールマークの認定を申請されている商品の配布を行いました。商品を受け取った方からは「今度、エコレールマークが付いている商品を探してみます。」「いろんな物にエコレールマークが関係しているのね!」など、来場者にエコレールマークが身近なものであることを知っていただくことができました。

イベント会場の中央に設置されたステージでは「エコレールマークちゃん」が登場。JR貨物新潟支店土井支店長から紹介された後、新潟市のPRキャラクターである「とめドキくん」「サイチョくん」などとの合同ステージに参加するなど、会場を大いに盛り上げていました。

今回の活動を通じて多くの来場者の方々に「エコレールマーク」をさらに知っていただくことができたと感じています。

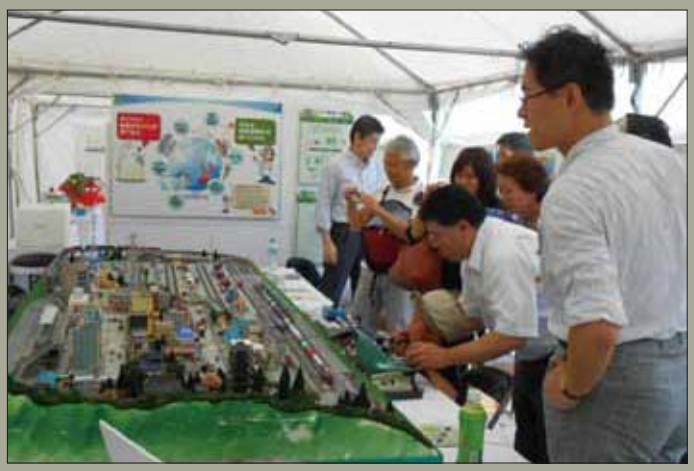
新潟支部では、地域社会へのPR活動を継続し「エコレールマーク」普及を積極的に進めます。

多くの来場者を迎えた盛大なイベントでした

中央ステージでキャラクターを紹介
（左より水玉ぼうし･まいかちゃん･エコレールマークちゃん･サイチョくん）

中央ステージで鉄道貨物輸送及びエコレールマークの説明をする
JR貨物土井新潟支店長

サイチョくん達との○×クイズで会場を大いに盛り上げました



JR貨物と共同で鉄道模型の運転

エコレールマーク認定商品等展示

エコレールマークちゃんと記念写真

エコレールマークちゃんと一緒に関連商品の配布

ブース前の展示所でエコレールマークちゃんと関連商品の配布

エコレールのパズルをする来場者（新潟支部ブース内）

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

平成21年度・22年度本部委員会報告書の閲覧を拡大

ホームページからの本部委員会報告書の内容について閲覧できる枠を拡大いたしました。従来は、「平成23年度版」のみでしたが、本年9月中旬より「平成21年度版」と「平成22年度版」の本部委員会報告書が追加されました。

協会本部の本部委員会（利用促進委員会、輸送品質向上委員会）は、毎年度テーマを選定し、1年間そのテーマに基づいて審議することを基本としております。しかしながら、とりわけ平成21年度と平成22年度の利用促進委員会におきましては、非常に大きなテーマとしての「大型コンテナの活用と利用促進に関する調査研究と提案」を選定し、2カ年に亘り審議した経緯がありました。

ここに、その概略ポイントを列記しますので、是非とも、その詳細につきましては、当協会ホームページをクリックしご覧くださるようお願いいたします。

1.平成21年度本部委員会報告書（抜粋）

31フィートコンテナ利用上の課題の解決に向けた提案

A.コンテナの保有・維持等のコスト低減　○鉄道事業者が31フィートコンテナを保有する○コンテナレンタル会社の運営○コンテナ1個当たりの製造コストの低減他

B.往復輸送の実現　○複数荷主企業による共同利用○鉄道事業者とのソリューション連携○返回送運賃の割引他

C.さらなる広報・PR活動の実施　○行政、鉄道事業者、利用運送事業者、関係団体が一体となった31フィートコンテナの利用促進キャンペーン ○未利用の荷主企業へのPR他

D.まとめ　昨今の景気悪化が深刻化するなかにあって、31フィートコンテナの利用促進を図るためには、多面的な課題を克服することによりスケールメリットを出せる規模まで利用を拡大していくことが望まれる。そのためには、A. 31フィートコンテナの保有・維持等のコスト削減　B. 31フィートコンテナの汎用化　C. 31フィートコンテナの往復利用の促進　D. 31フィートコンテナ輸送の積極的なPR等の施策により、既存の荷主企業における利用拡大、並びに新規荷主企業における潜在需要の掘り起こしを進めていくことが求められる。

2.平成22年度本部委員会報告書（抜粋）

31フィートコンテナの問題点・課題と対策・要望等

A.コンテナの保有・維持コストの低減:（1）大量生産による製造コストの低減、コンテナの改造（2）コンテナの駅内留置（3）鉄道事業者による31フィートコンテナの汎用化（4）レンタル会社のような31ftコンテナの共同保有機関の設立

B.定温（低温）輸送用コンテナの安定的な供給:（5）31フィートの冷蔵・冷凍コンテナの鉄道事業者保有

C.コンテナの利用申請期間の短縮:（6）少なくとも、既存路線においてすでに投入されている型と同等または小型のコンテナについて申請期間を短縮

D.利用コストの低減:（7）返路貨物検索システムの開発（8）コンテナ往復掲示板の開発と活用（9）柔軟な鉄道運賃応

E.コンテナの回転率の向上:（10）往路・復路輸送力偏重

F.集配車両の運用効率の向上:（11）集配車両の多目的利用（12）大型車両走行にかかる規制緩和（特車申請期間の短縮等）

G.31フィートコンテナの取扱駅・ルート拡大:（13）駅機能の整備、荷役機器の配置、台車の設備（14）低床台車の投入（15）集配車両、人員の配置（16）営業案内の充実

H.輸送障害発生の防止および発生時における適切な対応:（17）自然災害を除く輸送障害の発生回避（18）障害7回復見込み情報の迅速な公表（19）途中駅での取り卸し、途中駅での自動車代行

I.積載効率の向上、背高コンテナに対するニーズへの対応:（20）荷主ニーズに見合ったコンテナの作成、低床台車（70型）の導入促進。集配用低床車両の導入促進

J.輸送力の拡大:（21）ダイヤ改正時に前年度実績等に基づく輸送力の調整、列車長大化による輸送力の増強

第4回 利用促進委員会 (H24.10.17)

平成24年度第4回利用促進委員会では、年間テーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』及びサブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』について審議を行いました。

1.年間テーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』

今回の委員会では、荷主企業や利用運送事業者等へアンケートとヒアリング等による鉄道コンテナ輸送に対する相対的な評価や要望などについての調査の中間結果に対し審議行ないました。

【審議内容】

『アンケート調査結果の中間報告』

A.調査件数　190件の事業所を対象に調査を実施（含むヒアリング方式）し、10月上旬現在96件の回答（回収率:50.5%）データにより中間報告。

B.調査結果の概要（抜粋）

（1）10年前と比較した鉄道コンテナ輸送利用の増減及び理由については、「増加している」35件、「ほぼ横ばいである」22件、「減少している」35件、無回答4件。

（2）輸送モードの決定者→荷主企業（物流子会社を含む）および物流事業者（鉄道利用運送事業者を除く）における輸送モードの決定者（もっとも多いケースについて）については、「自事業所が決定する」4件、「本社や親会社の指示による」20件、「出荷先の指示による」10件、「物流子会社に任せている」6件、「物流子会社と相談して決定する」4件。

（3）輸送モードを選択する際に重視する項目については、「トータル運賃」94事業所すべて（除く無回答2社）。続いて「輸送品質」、「トータル輸送時間」、「確実性」、「環境負荷」という序列。

（4）トラック輸送および海上輸送と比較した場合の鉄道コンテナ輸送に対する評価については、対トラック輸送では、「トータル運賃」、「定時性」、「環境負荷」、「社会的なイメージ」において鉄道コンテナ輸送が上回っており満足度が高いという結果になっている。次に、対海上輸送では「トータル運賃」が下回っていた。

（5）今後における鉄道コンテナ輸送利用拡大の意向の有無は、「拡大する予定である」27件、「輸送品質の向上など条件次第である」24件、「減らす予定である」1件、「ほぼ現状のまま」24件、「分からない」13件、「その他」2件、無回答が5件。

（6）鉄道コンテナ取扱施設の新設が望まれる地域は北海道から九州までの間で39地域が挙げられた。

（7）鉄道コンテナ輸送の利用拡大に向けて改善が求められる点は、①運賃・料金②リードタイム③輸送障害時の対応④荷物事故対策・養生材⑤コンテナ自体⑥輸送力⑦積載効率⑧その他に分類された。

（8）「もしあったら便利」と考えられるコンテナ輸送サービスは、①運賃・料金②コンテナ自体③養生材④その他に分類された。

今後の調査研究は、アンケート調査（ヒアリング形式）による追加情報の収集とその結果に基づく分析を加えての課題抽出とその対策の検討というステップで委員会を進めることといたしました。

2.サブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』

今回の委員会では、アンケート調査（含むヒアリング調査）による検討候補地抽出に向けた作業経過が中間報告されたのち、今後の取り組み方法について審議を行いました。

【審議内容】

今後の作業の進め方については、（1）アンケート調査結果からの判断（2）地域経済データからの判断（3）検討候補地の選定及び当該地域における潜在貨物量の推計による検討基礎資料に基づき、委員会審議を進めていくことといたしました。

第５回 輸送品質向上委員会 (H24.10.19)

平成24年度第5回輸送品質向上委員会では、年間テーマ『荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案』に基づき、**「コンテナの内装及び養生材に関するヒアリング調査」**を取り上げた。ヒアリング調査の対象は、荷主及び利用運送事業者の11社である。

ヒアリングについては、次の8項目について実施し、その結果について審議した。

1.鉄道荷物事故（荷擦れ・荷崩れ）の発生頻度と発生内容、対策（養生）内容と効果

A.パレット積みの場合

（1）荷姿が段ボール箱で飲料等の食品の場合、「パレット積み+ストレッチフィルムによるラッピング+角当て+エアバッグ（or トラックボード）」での養生が行われていた。

（2）「パレット積み+ストレッチフィルムによるラッピング+角当て+エアバッグ（or トラックボード）」では、荷擦れ・荷崩れに一定の効果が得られているが、ラッピングされた製品同士で荷擦れが発生する事例も挙げられた。

（3）食品業界をはじめ、「段ボール箱自体が製品」という認識が常識化している。

（4）取扱個数が多い事業者では機械による自動巻きを採用しているが、多くの事業者ではトラックドライバーが、自らの手でラッピングしていた。ストレッチフィルムの張力の強弱については長年の経験に頼る部分が多かった。

B.バラ積みの場合

（1）荷姿が段ボール箱で菓子等の軽量品の場合、コンテナ容積の限界まで積載する目的でバラ積みが主流であった。

（2）製品の種類毎に段ボール箱の大きさが異なることから、注意を払って積み込んでも隙間は発生する。物流事業者側では、隙間にストレッチフィルムを詰めたりエアキャップを敷き詰めたりという養生を行っている。

2.JRコンテナの内装に対する意見（ベニヤ内張りの問題点等）

A.ベニヤ内張りの場合

（1）ささくれやビス、リベットの飛び出しによる破損事故が指摘された。

（2）19F、19G形式コンテナについて、老朽化したものは内部が傷んでいて酷い状況との指摘もあった。

（3）コンテナ内装と製品の直接的な接触を避ける目的で、各事業者ともボール紙やビニールを壁面や床面にガムテープで貼り、養生している。取卸や積込の時間は限られていることから、使用済みガムテープは綺麗に剥がされず、結果、コンテナ内装がますます汚損していくという悪循環に陥っている。

（4）ベニヤ内張りについては、臭気の問題も指摘があった。

B.ステンレス内張りの場合

（1）ステンレス内張りでは、掃除がしやすいとの声が多かった。

（2）ステンレス内張りの欠点として、結露や床面の凹凸を指摘する声が多かった。

（3）ステンレス内装でも養生は施すので、コンテナにあまり費用をかけない方が良いのではないかという意見もあった。

3.コンテナ内に設置されるべきラッシング装備の内容

A.JRコンテナについては、ラッシング装備が上部8か所、下部8か所の計16か所に設置されているが、数自体は特に問題ないとの意見が多かった。

B.19F、19G形式コンテナの壁面に設置されているラッシングフープの奥行きが浅いことから、ラッシングのフックが入らないとの声が多く聞かれた。

4.JRコンテナに施すべき装備（ラッシング以外）への意見

A.コンテナ内壁に設置されている「送り状入れ」についての改善要望が多く出された。現行の送り状入れは華奢な構造となっており、破損した送り状入れが鋭利になっている場合、破損事故のおそれがあるとの指摘もあった。

B.パッキン部の不良による濡損事故も数多くの指摘があった。コンテナ内壁へのビニール貼付や吸水シートの貼付等の対策を講じている事業者もあった。

C.冷蔵・冷凍コンテナについては、冷却用エンジンの積載によりコンテナの内容積が減少する懸念がある。

D.コンテナ内部の温度について、「JRコンテナとURコンテナの中間に位置する性能を有するコンテナ」のニーズがあった。

5.養生材の選択基準（効果、コスト、取扱い易さ等）

A.まずは効果を重視した上で、低コストの養生材が選択されている。費用負担については利用運送事業者が行う場合が多いが、荷主が負担している場合もある。

B.環境面から、エアバッグやトラックボード等、反復利用が可能な養生材を使用したいが、鉄道コンテナは基本的にワンウェイ（片道輸送）であることから、やむを得ずストレッチフィルムやボール紙のような「一度の利用」で終わる養生材を使用しているとの意見もあった。

6.養生材への要望事項

A.全国組織の事業者や、規模が大きい事業者では養生マニュアルが確立されているが、多くの事業者では養生マニュアルは存在せず、長年の経験や到着貨物を参考にした養生が行われ、試行錯誤を繰り返している。このように、現状では養生のノウハウが事業者間で共有されていない。試行錯誤を重ねてようやく得られた養生ノウハウを他事業者に公開することに抵抗感を覚える事業者も想定されるが、業界団体によるデータベース化についての要望も寄せられた。

B.養生材の返送については、JRコンテナを利用する場合もあるが、限られた数量の養生材で運用している事情もあり、着払いの宅配便で返送しているとの意見も多く聞かれた。このように、養生材の返送コストも利用運送事業者にとって負担になっていることが伺われる。

C.「コンテナの形状に合致した養生材やサプライ品のビジネスをJR貨物で取り組んではどうか」との意見があった。この他、貨物駅に養生材をストックしておき、利用運送事業者が必要に応じ使用できる仕組みを構築してほしいとの意見も寄せられた。

7.段ボール箱への意見（強度、サイズ、温湿度への耐性等）

A.近年強度が落ちてきているという印象は各事業者で有している。

B.湿気の多い夏場に荷物事故が多いという指摘も多く寄せられた。

C.受入側の要求水準の高まりもあり、以前は受忍された荷擦れでも、近年では受け取りを拒否される場合も多くなっている。

D.このように段ボール箱の強度低下や受入側の要求水準の高まりがあるにせよ、トラック輸送では荷擦れが少ないことから、トラックが輸送品質の基準となっている。トラック輸送の水準に追随することが鉄道輸送にも求められている。

8.自由意見

A.防振コンテナを要望する声もあったが、内容積が減少する仕様では使えないとする事業者もあった。薄手の防振マット等、内容積に支障を及ぼさない養生材であればニーズがある可能性がある。また、コンテナ貨車のエアサスペンション化を要望する声もあった。

B.コンテナの矢印表示については、「有効である」「荷物事故が減少した」との肯定的意見がある一方、「中継駅のフォークリフトオペレーターが矢印表示を遵守して積み込んでいるか疑問」、「貨車自体の中継により進行方向が途中で変わる」という否定的意見も寄せられた。

C.IT-FRENS導入後、自動枠調整の仕組みとなり、事業者側で輸送ルートを自由に選択することは困難になったが、フォークリフト作業の数が極力少なくなるよう、輸送ルートを選択しようとする事業者もあった。

会場は多くの来場者で賑やかでした

鉄道の日 | エコレールマークの認知度向上を目的に出展

鉄道フェスティバルに出展

大人気のエコレールマークちゃんと記念撮影

東北支部 福島県部会

●期日：平成24年10月6日(土)･7日(日)
●場所：郡山市ふれあい科学館

郡山市ふれあい科学館では、郡山市が鉄道と共に発展してきた歴史的背景から、国内最大級のNゲージ鉄道ジオラマを所有され、例年鉄道の日前後には記念イベントを開催しています。

鉄道貨物協会東北支部では、10月6日(土)、7日(日)の二日間、鉄道の日を記念して開催された「鉄道フェスティバル」にJR貨物東北支社と共同で初出展しました。

内容は、鉄道貨物輸送をもっと知っていただく為のパネル展示、エコレールマークPRコーナー、エコレールマーク認定商品展示、JR貨物オリジナルグッズ販売等で、クイズ大会やジグソーパズルコーナーには賞品が貰えるとあって、子供から大人まで終始列は途絶えることなく盛況となりました。特に「踊る大捜査線」に出演したエコレールマークちゃんの周囲には一緒に記念写真を撮ろうと多くの方が集まりました。

鉄道フェスティバルを主催するふれあい科学館では、鉄道資料展示や、プラレールコーナー等を設置され、イベント期間中は福島県随一を誇る高層ビルビックアイの20階･22階が、鉄道一色となりました。

期間中、来館された多くの皆様には、鉄道輸送を身近に感じ、地球にやさしい鉄道貨物輸送やエコレールマークについても知っていただけたものと思います。また、今も原発事故の影響で苦労されている方々にはひと時苦労を忘れて楽しんでいただけたものと思います。

最後に、関係各位には大変お世話になりましたこと厚く御礼申し上げます。

クイズ大会にみんな大興奮

ジグソーパズルも大変な人気でした

展示されたエコレールマーク認定商品

環境技術交流を推進することを目的として開催

エコテクノ2012に出展

九州支部

●期日：平成24年10月11日(木)～13日(土)
●場所：西日本総合展示場

10月11日(木)～10月13日(土)の3日間、北九州市の西日本総合展示場にて開催された「エコテクノ2012」に鉄道貨物輸送及びエコレールマーク認知度向上を目的として、昨年度から引続き(社)全国通運連盟と共に出展しました。

このイベントは、環境未来都市 北九州市が地球環境時代にふさわしい環境保全・エネルギー技術を一堂に紹介し、環境技術交流を促進することを目的として開催されました。

今年度は、ビジネス対象を拡大したこともあってビジネス関係の来場者が増え、一般の来場者が減ったこともありましたが、昨年度とほぼ同じ27,588人の来場者数となりました。趣向を凝らした当ブースにもたくさんの来場者が訪れ、鉄道貨物輸送、エコレールマーク事業について、幅広く知っていただくよい機会となりました。今後もこのようなイベントを通じて、鉄道貨物輸送のPR活動を続けていきたいと考えております。

たくさんの来場者で開催された会場

全国通運連盟と共にエコについてのパネルを展示

展示された認定商品

平成24年度 名古屋支部岐阜・西濃地区部会 利用促進会議開催

名古屋支部

●期日：平成24年10月12日(金)
●場所：長良川うかいミュージアム

名古屋支部岐阜・西濃地区部会・利用促進会議を10月12日(金)に長良川うかいミュージアムに於いて開催致しました。

岐阜商工会議所専務理事山田様より地区部会長に代り挨拶があり、支部の野村副幹事長から「本部委員会報告資料を是非お仕事に役立てて頂きたい」とお話があり、続いてJR貨物須藤営業担当次長の挨拶を頂きました。

最初に地区部会の23年度からの活動実績とこれからの行事予定の報告紹介があり、続いて、JR貨物から、大震災の復興支援への取組み、隅田川駅の改良工事、梅田貨物駅移転に伴う吹田貨物ターミナル駅の新設、百済駅改良工事を進め、利用しやすいダイヤになるように検討を進めている。又、コンテナ輸送品質向上キャンペーンへの取組の紹介がありました。

会員側から北海道新幹線の開通に伴う貨物輸送への影響等の質問を受け、その後、昼食を挟んで、長良川うかいミュージアムの施設を見学し終了しました。

熱心に議論が交わされた会議でした

会場となった長良川うかいミュージアム

北九州地区利用促進会議開催

●期日：平成24年10月5日（金）　●場所：小倉リーセントホテル

北九州地区では、約2年ぶりとなる利用促進会議を開催しました。議長と常任幹事の挨拶の後、平成25年春のダイヤ改正や現在の輸送概況、鉄道貨物協会の活動状況について説明がありました。その後、会員から自己紹介と要望や提案を挙げて頂きました。列車の遅延対策、大型コンテナ輸送の拡大や養生材の共有運用の要望など多くの意見が出されました。それに対してJR貨物からは、コンテナ内部の振動状況や東海道線の鹿対策について映像を使いながら、現況や今後の取り組み等説明がありました。

挨拶された反田議長

活発な意見交換が行われた会場

福岡・佐賀地区利用促進会議開催

●期日：平成24年10月11日（木）　●場所：博多都ホテル

熱心に審議が行われました

平成24年10月11日、博多都ホテルにおいて、福岡・佐賀地区利用促進会議を開催いたしました。当日は、ご来賓・会員様合わせて43名の参加を頂き、冒頭にご来賓であるJR貨物九州支社　麦谷次長を始め、当地区議長である鳥栖倉庫（株）社長高田様よりご挨拶を頂きました。議題である平成25年ダイヤ改正についてJR貨物九州支社佐野次長より説明を頂き、その後、テーマである「鉄道利用促進における課題」について会員・JR貨物との意見交換を行い、会員の方より鹿との衝撃による列車遅延対策や、コンテナ荷物事故防止に対する取組など活発な意見交換会となりました。

長崎地区利用促進会議開催

●期日：平成24年10月15日（月）　●場所：ホテルセントヒル長崎

平成24年10月15日、長崎市内のホテルセントヒル長崎で長崎地区利用促進会議を開催しました。当日は、ご来賓・会員様合わせて15名の参加を頂きました。

始めに議長あいさつでJA全農ながさき　園芸部　堀田部長より長崎で生産されている農産品の近況と物流に与える影響についてお話を頂きました。その後、ご来賓であるJR貨物九州支社　麦谷次長を始めご挨拶を頂き、議題である「平成25年ダイヤ改正」や「鉄道利用促進における課題」について意見交換を行い、会員の皆様から貴重なご意見を頂く事ができました。

挨拶された麦谷次長

お話された安藤常任幹事

花王株式会社 和歌山工場

〒640-8580　和歌山市湊1334番地

グローバルに支持され、信頼される企業をめざして

和歌山工場全景

花王は1890年に国産の高級化粧石鹸である「花王石鹸」を発売して以来、120年余にわたって、“よきモノづくり”に取組んできております。この“よきモノづくり”という言葉には、お客さまのニーズに沿った高性能・高品質な製品をお届けするのはもちろんのこと、環境負荷の低減や高齢化社会への提案といった社会的課題の解決において、その責務を真摯に果たしたいという花王の思いもこめられています。

K A O

花王の製品は、ビューティケア事業（化粧品、ヘアケアなど）、ヒューマンヘルスケア事業（飲料、衛生品、歯磨きなど）、ファブリック&ホームケア事業（衣料洗剤、台所用・住居用洗剤、柔軟剤など）、ケミカル事業（産業用油脂、界面活性剤など）の4分野に分かれます。

「花王石鹸」を発売後も、日本初の家庭用合成洗剤「花王粉せんたく」、住居用液体洗剤「マイペット」、炭酸ガス入浴剤「バブ」、コンパクト衣料洗剤「アタック」、角栓除去パック「ビオレ毛穴すっきりパック」、特定保健用食品「ヘルシア緑茶」、衣料用超コンパクト液体洗剤「アタックNeo」など、各分野で革新的な商品をつくり続けてきております。

このような商品を製造する拠点は、全国に9工場あります。なかでも最大規模の工場が和歌山工場です。1942年に設立し、複数の分野の製造をしています。国内製品の約半分を生産する和歌山工場では、その輸送にJR貨物を利用しています。1970年代初めに、荷物を出発地から到着地まで同一パレットに載せたまま輸送・保管する「一貫パレチゼーション」に取組みパレット輸送の基本が確立され、コンテナ輸送を想定しパレットの選定や積み付け高さ、物流拠点の設備設計のベースとなっています。

現在、5トンコンテナで毎日50～60基ほどの輸送をしています。また、1997年には、いち早くISOタンクコンテナを導入し、鉄道を利用した大量輸送を図って環境負荷低減を推進しています。このような、鉄道輸送推進の取り組みで、2005年の第一回エコレールマークの認定を取得しました。今後も、物流面の環境負荷低減に積極的に取組んでまいります。

また、花王は、2009年6月『環境宣言』を発表し、テーマは、3つの“いっしょにeco”です。**お客様と、パートナーと、社会と**協力しながら、皆様とともに“いっしょにeco”を推進していきます。この“いっしょにeco”を具現化する商品として誕生したのが、「アタックNeo」です。独自の技術で大幅な節水と節電を実現しました。また、昨年、和歌山工場に次世代環境技術の研究開発拠点となる研究施設「エコテクノロジーリサーチセンター」を新設しました。

花王は、企業理念である“よきモノづくり”をとおして世界の人々の豊かな生活文化の実現と、社会のサステナビリティ（持続可能性）に貢献することを使命としています。これからもグローバルに支持され信頼される企業グループとなることを目指して取組んでまいります。

花王の製品群

コンパクト衣料洗剤

超コンパクト液体洗剤

特定保険用食品ヘルシア

お国自慢

心豊かな人と自然との共感

たっぷりと快感…四国

桂 浜

太平洋に面した白砂青松の浜は月の名所としても名高い。
月の名所として唄われた『桂浜』。太平洋の雄大さを目の当たりにできる、風光明媚な浜である。龍頭岬の丘の上には海を見下ろすように坂本龍馬の像が建っているほか、一帯は公園として整備され、坂本龍馬記念館や桂浜水族館、土佐闘犬センターなどもある。

坂本龍馬像

坂本龍馬像は1928（昭和3）年、高知県の青年有志の募金によって建立された。和服にブーツを履いた凛々しい龍馬は、はるか太平洋の彼方を見つめている。像の高さは台座を含めるとなんと13.5m!毎年秋には、龍馬像と同じ高さで太平洋を眺められるというイベントも開催している。

土佐闘犬センター

土俵に似た競技場があり、相撲と同じく横綱、大関といった番付もある。闘犬はもちろん、化粧回しを付けた横綱の土俵入りも見ることができる。

担当：四国支部（森岡知子）

協会ニュース

本部主催「講演会」及び「歌の調べ」へのご案内

協会本部ではこの秋、「講演会」と「歌の調べ」を開催します。一般の方も無料でご招待。皆様お誘い合わせのうえお申込み下さい。

■期　日：平成24年11月19日(月)15:00～17:10
■場　所：如水会館2階「スターホール」(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)
■申込方法：電話又はファクスで氏名、電話番号をご連絡下さい。
(TEL)03-5256-0577,0581
(FAX)03-5256-9220
担当：本部総務部　大野、菊地、坂本
■申込締切：平成24年11月12日(月)
詳しくは、「公益社団法人鉄道貨物協会」ホームページをご覧下さい。

講演会
演　題：「人々の暮らしを守る鉄道貨物輸送」
講演者：東京海洋大学 教授 苦瀬博仁 氏　※エコレールマーク運営・審査委員長

歌の調べ
テーマ：「歌曲の夕べ」
演奏者：ソプラノ歌手 山内すみえ 氏・ ピアニスト 石川祐介 氏

平成24年11～12月分実施項目

本　部

11月　6日(火)／会誌編集会議(協会会議室)
11月　7日(水)～10日(日)／
メッセ名古屋2012(名古屋・ポートメッセナゴヤ)
11月16日(金)／第6回輸送品質向上委員会(協会会議室)
11月19日(月)／第4回理事会及び評議員・支部長合同会議(如水会館)
11月21日(水)／第5回利用促進委員会(協会会議室)
12月13日(木)～15日(土)／
第14回エコプロダクツ2012
(東京ビッグサイト東展示場・1～6ホール)

支　部

●新潟支部
11月　6日(火)／利用促進会議
庄内地区輸送協議会(ホテルイン酒田駅前)

●近畿支部
11月15日(木)／京都分会利用促進会議
12月8日(土)～9日(日)／京都環境フェスティバル(京都市内)

●米子支部
11月　9日(金)／工場見学(出雲市内)

●岡山支部
11月14日(水)／利用促進会議　倉敷地区(ホテル日航倉敷)
11月26日(月)／利用促進会議　備後地区
(福山ニューキャッスルホテル)

●広島支部
11月15日(木)／地区環境輸送協議会(宇部)
11月22日(木)／　〃　(大竹)
11月27日(火)／　〃　(周南)
11月29日(木)／　〃　(下関)

MONTHLY かもつ・11月号　第62巻・第11号　2012年（平成24年）11月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

MONTHLY かもつ

平成24年11月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可

MONTHLYかもつ 11月号 第62巻 第11号 頒価420円（本体価格400円 送料別 会員の購読料は年会費に含まれます）

ISSN 0913-9850